

## ある言語研究者の不採用通知における「お祈り」通知と「ますます」通知

藤原敬介

帝京科学大学

主要語句：公募、不採用通知、挨拶、人称詞、敬語

### 1 はじめに

筆者は2008年3月に博士の学位を取得して以来、2021年4月に帝京科学大学総合教育センターに採用されるまで、160回以上大学教員等の公募に応募し、ほぼおなじ回数の不採用通知をうけとってきた。本稿では、このうち手元に不採用通知がのこっている107回分について、植木 [2018] にならって分析する。

「不採用通知は落胆、怒りなどの負の感情を抱かせるものであり、それを受け取った者にとっては忘れたいもの、隠したいものである。そして、不採用通知はあえて公開するものではなく、その事例を収集することは難しいために、従来、不採用通知の研究が行われなかったと考えられる」と植木 [2018: 75] はのべる。本稿は、不採用通知のさらなる事例を提供することを主要な目的としている<sup>注1</sup>。

本稿の構成は次のとおりである。2で筆者がうけとった不採用通知の内訳、3で不採用通知の書式、4で不採用通知の宛名と二人称、5で不採用通知の差出人、6で不採用通知の本文、7で不採用通知の結びの挨拶についてのべる。8で本稿をまとめる。附録1として「お祈り」文書の体裁、附録2として「お祈り」文書における結びの挨拶一覧、附録3として「お祈り」文書の文面例をあげた。

### 2 不採用通知の内訳

筆者のメモによると、各年度ごとの不採用通知数は表1のとおりである。第1行の08～20は、2008年度から2020年度であることをしめす。括弧内の数字は手元に書類がのこっている不採用通知の数をしめす。公募に応募しはじめたころは、もどってきた「お祈り」<sup>注2</sup>をすぐにすてていた。ある時期からは保存するようになった。保存するようになってからも、不採用通知と手元の書類の数があわないところがある。メールで案内があったり、書類がとどかなかつたり<sup>注3</sup>、書類を紛失したりしていることがあるためである。

<sup>注1</sup> 不採用通知の研究そのものではないけれども、水月 [2020: 11–12, 33–34] にも不採用通知の具体例が提示されている。

<sup>注2</sup> 不合格、不採用通知のメールのことを「お祈りメール」とよぶ。『現代用語の基礎知識』では2011年版から立項されている。飯間 [2014: 58] には「あの慇懃無礼な感じが神経を逆撫でする」とある。単に「お祈り」ということもある。

<sup>注3</sup> 不採用通知がこなかったことがすくなくとも一度ある。その公募では、採用までの日程が明記されていたので、不採用であることはすぐにわかった。こちらから連絡するまで、提出書類は返却されなかった。

年度	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
不採用数	32	9	16	6	14	12	11	9	5	1	8	19	21
手元の書類	(4)	(4)	(14)	(6)	(12)	(11)	(9)	(7)	(3)	(1)	(3)	(13)	(20)

表1 年度別不採用通知数

筆者の専門はバングラデシュやビルマのチベット・ビルマ系少数民族言語についての言語記述である。このような専門にぴったりとあてはまる公募はまず存在しない。そこで、関連する分野の公募に応募することになる。具体的には主として言語学、日本語教育、英語教育にかかわる公募である。2008年度は、はじめて公募に応募しはじめた年であった。事情もよくわからないまま、手当り次第に応募していたために、応募数がおおくなっている。次第に「だしても無駄」な公募<sup>注4</sup>の目星がつくようになってきたので、応募数は減少している。2019年度と2020年度がややおおいのは、英語の非常勤講師をはじめたからである。一般教養の英語担当教員の公募に応募することで、数がふえている。

### 3 不採用通知の書式

研究者の不採用通知の書式について植木 [2018: 76] は次のように記述する。

不採用通知は、A4程度の大きさの用紙1枚に印刷されており、企業のビジネス文書と同じ書式である。すなわち、用紙の上部には文書番号、日付、宛名、差出人、公印、件名がある。それらの下に本文があり、本文は時候の挨拶、応募への御礼、不採用であること、結びの挨拶からなる。本文には、応募書類の返送・廃棄の手続き、機密保持、審査の遅れのお詫びなどが追加されることもある。ただし、研究者の不採用通知には、上記全ての内容が含まれないことがある。文書番号や公印がないものも多く、それらは組織としての公文書として取り扱われていないと思われる。

筆者がうけとってきた不採用通知も、上記の記述の範囲にほぼおさまる。一点補足すれば、107通の不採用通知のうち5通については、大学の正式なレターヘッドつきの用紙に印刷されていた。ただし、その5通のうち公印や文書番号がついていたものは1通(20%; 1/5)のみであった。他方、通常のコピー用紙に印刷されたものの中で公印があったものは36通(35%; 36/102)、文書番号があったものは18通(18%; 18/102)であった。以上をまとめて植木と比較すれば、表2のようになる<sup>注5</sup>。この結果は、植木 [2018: 76] が平成22~25年(2010-2013

<sup>注4</sup> たとえば、内部昇進のための形式的な公募(筆者がみた事例は、いずれも地方国立大学)。鷺田 [1991] や櫻田 [2011]、矢吹 [2011]、水月 [2020] 等には「公募の裏側」の事例がいくつか紹介されている。鷺田 [1989] はある公開公募にかんする稀有な報告である。

なお、読み合わせ担当者からのコメントとして「面接に交通費が出る場合は、不採用を出すのになんのためらいもないように感じます」とあった。筆者は、面接に交通費をだすと明記してある公募を(みかけることは滅多にないけれども)みると応募したくなるし、見識のある研究機関であるという印象はもつ。

<sup>注5</sup> 植木 [2018] は、植木自身が公募に応募していた時期にしたがって、平成11~14年(1999-2002)と平成22~25年(2010-2013)の二つの時期にわけ、分析している。前者は「学会誌への掲載や

年)の数字として提示しているものとほぼ合致する<sup>注6</sup>。

	植木 (1999–2002)	植木 (2010–2013)	藤原 (2008–2020)
公印あり	70% (21/30)	31% (15/49)	35% (37/107)
文書番号あり	40% (12/30)	16% (8/49)	18% (19/107)

表2 不採用通知における公印・文書番号の有無

#### 4 不採用通知の宛名と二人称

植木 [2018] では分析されていないけれども、不採用通知の宛名は、一般的には、「個人名 + 様」あるいは「個人名 + 殿」である。このほかには「応募者各位」あるいは単に「各位」とすることで、個体認識の手間をはぶくやり方も散見される。そもそも宛名がかかれぬ事例も、稀にはあるが確認されている。表3<sup>注7</sup>に一覧をしめす。

宛名	様	殿	応募者各位	各位	なし
国立	12% (13/107)	21% (23/107)	3% (3/107)	1% (1/107)	1% (1/107)
公立	6% (6/107)	1% (1/107)	0% (0/107)	0% (0/107)	0% (0/107)
私立	40% (43/107)	8% (9/107)	4% (4/107)	1% (1/107)	2% (2/107)
合計	58% (62/107)	31% (33/107)	7% (7/107)	2% (2/107)	3% (3/107)

表3 不採用通知の宛名

表3からあきらかなように「様」は私立で、「殿」は国立で使用される傾向にある<sup>注8</sup>。両者のつかいわけについて菊地 [1997: 245] は次のように記述する。

官庁から個人への通知では「殿」が一般的である(あった)が、そのせいもあってか、あ

---

各大学・研究機関への送付による公募情報の公開が主であり」、後者は「JSTによるJRECIN Portal (<https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>) が普及し、ほとんどの大学で教員の公募がJREC-IN Portal によって行われるようになった時期である」という。

<sup>注6</sup> なお、公印については明示的に「公印省略」とかかれていたものが17通(16%; 17/107)、割印がついていたものが6通(6%; 6/107)、担当者の個人印がついていたものが2通(2%; 2/107)であった。割印があるものは公印があるものに準じるとかんがえるならば、筆者がうけとった不採用通知の「公印あり」率は40%(43/107)ということになる。

<sup>注7</sup> 表3において合計の比率が100%にならないのは、本稿では小数第一位を四捨五入していることによる。なお、植木 [2018] があげる数字も同様である。

<sup>注8</sup> 池田 [1976: 199–200] には「差出人の名と受取人であるわたしと、個人に深い関係がな」ような手紙はおおくが「本文とともに「様」という字だけが印刷してあって」「ペンなり筆なりで「池田弥三郎」と書いてあり、「差出人は、「様」一字を書くのを儉約して、相手をみんな呼び捨てで、書いている」のがかるく不愉快であるという趣旨の記述がある。筆者がうけとった107通の不採用通知のうち、そのように「呼び捨て」の手書きであったものは4通(公立1通、私立3通)で、すべて「様」が印刷されていた。池田の時代と比較すると、ワープロの普及によって「呼び捨て」の手書きは減少していると推測される。

なお、筆者個人の印象としては、国立の中でも伝統的な「一文字学部」の系統につらなる部局ほど「殿」である比率がたかく、新興部局やセンターの系列では「様」の比率がたかい。この傾向は文面の丁寧さとも相関している。附録3の簡素な例1と丁寧な例5は、どちらも同一の国立大学であるけれども、前者は一文字学部であり、後者はセンターである。

まり敬度は感じられず、言ってみれば、呼び捨てにしないという程度で感度であろう。が、“改まった敬称”だというつもりでか、官庁に合わせてか、民間企業からの文書も「殿」が少なくなかった。しかし、「様」のほうが感じがよいと受け止める向きが多いようで、最近では「殿」から「様」へ切り替える傾向が出てきている。

「殿」は「あまり敬度は感じられず」、「呼び捨てにしないという程度で感度」で使用されているということである。

不採用通知における二人称としてどのような単語が使用されているかをまとめると表4のようになる。

二人称	貴殿	貴台	貴方 <sup>注9</sup>	先生	藤原様 <sup>注10</sup>	その他 <sup>注11</sup>	なし
国立	21% (22/107)	1% (1/107)	4% (4/107)	0% (0/107)	3% (3/107)	0% (0/107)	10% (11/107)
公立	2% (2/107)	0% (0/107)	2% (2/107)	0% (0/107)	0% (0/107)	0% (0/107)	3% (3/107)
私立	12% (13/107)	2% (2/107)	1% (1/107)	8% (8/107)	3% (3/107)	2% (2/107)	28% (30/107)
合計	35% (37/107)	3% (3/107)	7% (7/107)	8% (8/107)	6% (6/107)	2% (2/107)	41% (44/107)

表4 不採用通知の二人称

国立で「貴殿」がおおく、私立では「なし」がおおい。「貴殿」は、「殿」とおなじく「あまり敬度は感じられず」、「呼び捨てにしないという程度で感度」で使用されているようにおもわれる<sup>注12</sup>。文化審議会答申 [2007: 42] は「あなたの」の使用について次のようにのべる。

相手の名前を示さずに呼ぶことで、中立的な表現となる反面、やや冷たい響きが感じられると言える。

「相手の名前を示さずに呼ぶ」というのは「貴殿」もおなじであり、「やや冷たい響き」があるといえる。文化審議会答申 [2007: 35] にあるように、「敬語を使う際に、相手に対する配慮の意識がなく、むしろ見下しているような気持ちがあるとすれば、幾ら敬語を使っても失礼

<sup>注9</sup> 「貴方」の内訳は「貴方」(国立1通)、「貴方様」(国立2通、公立1通)、「あなた」(公立1通、私立1通)、「あなた様」(国立1通)である。

<sup>注10</sup> 「藤原様」の内訳は「藤原様」(国立3通、私立2通)、「藤原敬介様」(私立1通)である。

<sup>注11</sup> 「その他」の内訳は「皆様」(私立1通)、「you」(私立1通: 注23参照)である。

<sup>注12</sup> 菊地 [2010: 256] によると接頭辞の「き- (貴-)」は「尊敬語を作る接頭辞。相手側を高める。「貴下・貴兄」は、男性間で相手を指す代名詞として使う (ただし、実際には目上に対してではなく同輩以下に対して使う)」とのことである。

「貴殿」を辞書でひくと「同等 (以上) の相手に対する敬称」(『新明解国語辞典第7版』2011年)、「相手をさす尊敬語」(『三省堂国語辞典第7版』2013年)という語釈がある一方、「(尊敬の二人称) あなた。貴下」(『広辞苑第6版』2008年)という語釈もある。また「「貴殿」「貴下」は事務文書でもよく使われる」(『類語新辞典』2005年)という記述にもあるように「事務」的な語であるといえる。「貴殿」は、「貴下・貴兄」といった二人称と同様に、敬意逡減の法則により「実際には目上に対してではなく同輩以下に対して使う」というのが実態に即しているであろう。

こころみにツイッターで「貴殿」を検索すると、相手に対して批判的な意見をのべるときに使用される事例がおおいことがわかる。形式的には敬意をあらわしつつも「むしろ見下しているような気持ち」が感じられる。

に感じられてしまう」ということだろう<sup>注13</sup>。

二人称として「なし」がおおいのは示唆的である。文化審議会答申〔2007: 42〕は次のようにのべる。

名前を知っている相手に対しては名前を呼ぶことによって、名前を知らない相手に対してはその人の動作などに敬語を使うことによって、「あなた」を使わないようにすることもできる。

「貴殿」などを使用するのは失礼と感じられる一方、個人名を入力するのは手間がかかる。とはいえ、採用するわけでもない相手を「先生」とはよびたくない。そこまで失礼ではなく、不採用者の数だけ書類を作成する手間がかからない方法として、二人称の不使用がひろがっているようにおもわれる<sup>注14</sup>。

## 5 不採用通知の差出人

植木〔2018: 76〕では、平成 11~14 年 (1999-2002) と平成 22~25 年 (2010-2013) を比較すると、「組織の長、部局の長の割合が減少し、より下の職位の教員、事務職員の割合が増加していることがわかる」と分析されている。そして、この事実は「研究者の不採用通知がより簡素で事務的になったことを示唆」しているとされる。

「研究者の不採用通知がより簡素で事務的」とであるという指摘はただしいとおもわれる。ただし、筆者がうけとった不採用通知の差出人は、表 5 にしめすように、組織の長と部局の長が合計して 80% をこえている。この数字だけをみれば、植木〔2018〕にしめされる平成 11~14 年 (1999-2002) の数字によりちかい。組織の長や部局の長が差出人となっているものは、実際の文書作成はかならずしも本人がしているわけではなく、他の教員や事務職員が担当していることがおおいのではないだろうか<sup>注15</sup>。

	植木 (1999-2002)	植木 (2010-2013)	藤原 (2008-2020)
組織の長	20% (6/30)	16% (8/49)	32% (34/107)
部局の長	53% (16/30)	35% (17/49)	49% (52/107)
学科の長	3% (1/30)	8% (4/49)	2% (2/107)
担当教員	13% (4/30)	22% (11/49)	7% (8/107)
事務	10% (3/30)	16% (8/49)	7% (7/107)
その他 <sup>注16</sup>	0% (0/30)	2% (1/49)	4% (4/107)

表 5 不採用通知の差出人

<sup>注13</sup> 不採用者に「貴殿」とかく担当者も、同僚には「貴殿」とはかかないのではないだろうか。

<sup>注14</sup> たとえば附録 3 の丁寧な例 5 は、二人称を使用せずに丁寧に表現している例である。

<sup>注15</sup> なお、学長本人が実際に文案をかいているとみられる不採用通知も存在する。附録 3 の丁寧な例 4 は、そのような例である。

<sup>注16</sup> 藤原 (2008-2020) における「その他」は、委員会名であるものが 2 通、差出人が明示されていないものが 2 通である。植木〔2018〕における「その他」が具体的にどのようなものであるかは明記されていない。

## 6 不採用通知の本文

不採用通知の本文の例は附録 3 にしめすとおりである。筆者がうけとった範囲では、本文の長さは 3 行から 12 行の間におさまっている。内容は、簡素なものから丁寧なものまでさまざまである。

本文でよく使用される表現としては「お祈り」または「祈念」(73 通; 68%; 73/107)、「ますます」(27 通; 25%; 25/107)、「健勝」(33 通; 31%; 33/107)、「活躍」(66 通; 62%; 66/107)、「貴意に添えず」あるいは「ご希望に添えない」に類するもの(75 通; 65%; 70/107)などがある<sup>注17</sup>。これらの表現は、おそらく数十年にわたり使用されてきたものである<sup>注18</sup>。

近年話題にあがる「させていただく」に類する表現については、30 通(28%; 30/107)で確認された<sup>注19</sup>。

## 7 不採用通知の結びの挨拶

筆者がうけとった 107 通の不採用通知のうち「結びの挨拶」があったものは 88 通(82%; 88/107)であった。この 88 通のうち「お祈り」または「祈念」という単語がはいっていたものは 73 通(83%; 73/88)、「ますます」という単語がはいっていたものは 27 通(31%; 27/88)であった<sup>注20</sup>。表 4 にしめすように、植木 [2018: 76] にしめされる平成 22~25 年(2010~2013 年)の結果と比率を比較すると、「結びの挨拶」と「ますます」については筆者がうけとったもののほうがややたかい一方、「お祈り」についてはかなりひくい。

<sup>注17</sup> これらすべての文言がはいっている不採用通知はめずらしくない。附録 3 の丁寧な例 2 は、その一例である。

<sup>注18</sup> 飯間 [2014: 58] には杉元 [1990: 303] にある「今後のご健闘をお祈り申し上げます」という例がひかれている。なお石渡 [2013: 49] によれば「日本に大卒採用が定着したのは大正時代」とのことである。そのころから不採用通知も送付されていたかもしれない。

<sup>注19</sup> 三輪 [2000: 133] によれば、「させていただく」に対する不快感はふるくから表明されている。たとえば、「「サセテイタダク」というインギン無礼な円曲法がマンエンしつつある」[三上 1955: 223]、「この言い方は、お客様の好意にすがって、というような、口先だけのいんぎんさがちらついているやな言い方」[池田 1976: 195]、「慇懃無礼。相手との接触に間を置こう、トラブルを避けようというおよび腰の姿勢が感じられます。高度成長に伴う人間関係の希薄化を物語っているのでしょうか」[大岡 1993: 17] といった例である(原文からの引用にあたり、三輪 [2000: 133] からの引用とはことなる部分がある)。

椎名 [2021] では「「させていただく」には(中略)「気遣い」をやりとりしていたはずが、定型表現になることによって、もともとのポライトな意味が形骸化し、慇懃無礼な表現と解釈されても仕方がないような場面が出てきて」(p.215) あり、「「させていただく」を過剰に使用すると、話し手に焦点が当たりすぎて、自己の尊大化がおり、相手への敬意が相対的にも低下する」(p.229) という可能性があることが指摘されている。

今も昔も「させていただく」に対して「慇懃無礼」に感じる人は一定数いることがわかる。慇懃無礼さが身上の不採用通知においては、今後も「させていただく」の使用は増加するのではないかとおもわれる。

<sup>注20</sup> 「一層」がふくまれる 5 通をふくめると 36% (32/88) となる。植木 [2018] には「一層」については言及がない。

	植木 (1999-2002)	植木 (2010-2013)	藤原 (2008-2020)
「結びの挨拶」	40% (12/30)	76% (37/49)	82% (88/107)
「お祈り」	83% (10/12)	95% (35/37)	83% (73/88)
「ますます」	8% (1/12)	27% (10/37)	31% (27/88)

表6 不採用通知における「結びの挨拶」と「お祈り」と「ますます」

## 8 おわりに

以上、筆者がうけとってきた不採用通知を、植木 [2018] の分類にならひ紹介した。植木 [2018] では考察の対象となっていない宛名や二人称をめぐる問題についても考察をくわえた。

不採用通知の研究は「不採用通知のさまざまな事例を報告することで、不採用通知を受け取った者の負の感情<sup>注21</sup>の軽減につなげる」[植木 2018: 77] ことも目的のひとつである。

ところで、時枝 [1941: 452] によれば「敬語は尊敬表現であるよりも、尊卑の識別による素材の概念的把握の表現であり、かゝる表現を通して、話手の尊卑の識別を表現することであり、そこに話手の教養或は人格を覗ふことが出来る」という。不採用通知からも「話手の教養或は人格を覗ふことが出来る」といえるだろう。

本稿が不採用通知作成者の目にとまり、どのような不採用通知が「負の感情」を軽減するかをかんがえる契機ともなればさいわいである。

### 附録 1・「お祈り」文書の体裁

筆者がうけとってきた不採用通知の体裁をまとめたものが以下の表である。各項目の意味は次のとおりである。

1. 番号: 筆者がつけた整理用の番号。1 から 107 までである。\*がついているものは面接によばれた末にとどいたものである<sup>注22</sup>。
2. 年度: 不採用通知の送付された年度。2008 年度から 2020 年度までである。
3. 校種: 国立大学、公立大学、私立大学等の種類をあらわす。筆者が応募した範囲では、高等専門学校や研究所の類は国立である。
4. 差出人: 組織長は学長や所長、部局長は研究科長や学部長をあらわす。その他、学科長、

<sup>注21</sup> 不採用通知をめぐる「負の感情」に関連して、2016 年に自殺した西村玲氏の両親が編集した西村・西村 (編) [2019: 402] に次のようにのべられている (引用は森新之介氏の note 「呉座界限問題と私の Twitter 夜逃げ (その 2)」 (<https://note.com/mshin0621/n/nd43a181c0164> 2022 年 4 月 2 日閲覧) に掲載されている画像による)。

「大学教職の“公募”について、本人が憤懣やるかたなかったのは、ほとんどの場合、採用者がすでに決まっていながら、“公募”の体裁を整えるために行なうものであったこと、しかも応募書類をほとんど見もしないのにやかましい書類、資料、書式を求めることだった。定価数千円、数百ページの著書を六部要求して、その返却を前提としてもいない例、仕方なくコピーして送ると、クリップの位置が提出時のまま、ということもあった。応募大学は二十余校」。

<sup>注22</sup> 面接のあとにうけとった不採用通知は 3 通しかない。そのうち 1 通は、ほぼおなじ文面のものを面接によばれずに不採用であったときにもうけとっている。面接によばれたかどうかと不採用通知の丁寧さに相関関係はないようにおもわれる。

教員、事務職員などがある。

5. 文書番号: 不採用通知に付された文書番号をあらわす。この番号がついていれば、公文書としてあつかわれていることをしめす指標となる。
6. 公印: 公印があれば「有」、なければ「無」、「公印省略」と明記されていれば「略」、割印があれば「割印」、個人印であれば「個人」である。
7. 様式: レターヘッドがあれば「有」、なければ「無」である。
8. 日付: 和暦または西暦の別を表記する。
9. 宛名: 名前のあとにくるのが「様」または「殿」、名前なしで「応募者各位」などとかかかれているものは「各位」である。
10. 文頭・文末: 拝啓・敬具、前略・草々、謹啓・謹言などの組み合わせ。敬具のみのこともある。
11. 行数: 本文の行数をあらわす。(+1) などとあるのは、本文のあとに何らかの追記があることをしめす。たとえば 17 番で (+1) とあるのは「※提出していただいた応募書類は同封にて返却させていただきます。」という追記が 1 行あるからである。

番号	年度	校種	差出人	文書番号	公印	様式	日付	宛名	文頭・文末	行数
1	2008	国立	学科長	無	割印	無	和暦	様		7
2 <sup>注23</sup>	2008	私立	教員	無	無	無	西暦	各位		5
3	2008	私立	組織長	無	無	有	西暦	様	拝啓・敬具	8
4	2008	国立	教員	無	無	無	和暦	様	拝啓・敬具	8
5	2009	国立	部局長	有	有	無	和暦	殿	拝啓・敬具	5
6	2009	国立	部局長	無	略	無	和暦	各位		4
7	2009	国立	組織長	無	割印	無	和暦	殿	拝啓・敬具	6
8	2009	国立	部局長	無	有	無	和暦	殿		3
9	2010	私立	部局長	無	無	無	西暦	様	拝啓・敬具	5
10	2010	私立	事務	無	無	無	西暦	殿	拝啓・敬具	7
11	2010	私立	部局長	無	略	無	西暦・和暦	様	拝啓・敬具	7
12	2010	私立	事務	無	無	無	西暦	様	拝啓・敬具	8
13	2010	国立	組織長	有	有	無	和暦	殿	拝啓・敬具	8
14	2010	私立	学科長	無	個人	無	和暦	様	拝啓・敬具	8
15	2010	国立	組織長	無	無	無	和暦	殿	拝啓・敬具	7
16	2010	私立	部局長	無	無	無	和暦	様	拝啓・敬具	5
17	2010	私立	組織長	有	有	無	和暦	様	以上	2(+1)
18	2010	私立	部局長	無	略	無	和暦	殿	拝啓・敬具	7
19	2010	国立	部局長	無	略	無	和暦	各位		4

注<sup>23</sup> 日本国内の大学に対して応募書類をすべて日本語でかいたけれども、この不採用通知のみ、全文英語でかかれている。差出人が外国人教員であるからとおもわれる。



番号	年度	校種	差出人	文書 番号	公印	様 式	日付	宛名	文頭・文末	行数
20	2010	公立	組織長	有	有	無	和暦	殿	謹啓・謹白	6
21	2010	国立	教員	無	無	無	和暦	様	拝啓・敬具	7
22	2010	私立	部局長	無	無	無	西暦	様	拝啓・敬具	9
23	2011	国立	部局長	有	有	無	和暦	様	拝啓・敬具	6
24	2011	私立	部局長	無	有	無	和暦	様		4
25*	2011	私立	組織長	有	有	無	和暦	様	拝啓・敬具	8
26	2011	国立	部局長	無	略	無	和暦	殿	拝啓・敬具	5
27	2011	公立	部局長	無	略	無	和暦	様	拝啓・敬具	10
28	2011	私立	組織長	無	無	無	和暦	様	拝啓・敬具	5
29	2012	国立	教員	無	無	無	西暦	様	拝啓・敬具	8
30	2012	国立	部局長	無	有	無	和暦	殿		5
31	2012	公立	組織長	有	有	無	和暦	様		4
32	2012	私立	部局長	無	無	無	西暦	様	以上	3
33	2012	私立	事務	無	無	有	西暦	様	前略・草々	4(+2)
34	2012	私立	部局長	無	有	無	西暦	各位	拝啓・敬具	9
35	2012	私立	組織長	無	有	無	和暦	殿	拝啓・敬具	8
36	2012	私立	事務	無	無	無	西暦	様	拝啓・敬具	9
37	2012	国立	組織長	有	有	無	和暦	様		4
38	2012	国立	部局長	有	割印 ・略	無	和暦	殿	謹啓・謹言	9 9
39	2012	国立	部局長	無	有	無	和暦	様		5
40	2012	国立	部局長	無	略	無	和暦	殿		4
41	2013	国立	教員	無	個人	無	和暦	各位	以上	4
42	2013	私立	組織長	無	無	無	和暦	様	拝啓・敬具	3
43	2013	国立	組織長	無	略	無	和暦	殿	拝啓・敬具	6
44	2013	国立	教員	無	無	無	和暦	殿	拝啓・敬具	6
45	2013	私立	部局長	無	有	無	和暦	殿	拝啓・敬具	7(+3)
46*	2013	国立	組織長	無	略	無	和暦	殿	拝啓・敬具	6
47	2013	国立	部局長	無	無	無	和暦	殿	謹啓・謹白	8
48	2013	国立	部局長	無	有	無	和暦	殿	拝啓・敬具	5
49	2013	私立	組織長	無	無	無	和暦	様	謹啓・敬具	6
50	2013	私立	部局長	無	無	無	西暦	様	拝啓・敬具	6
51	2013	私立	部局長	無	有	無	西暦	様	拝啓・敬具	7
52	2014	国立	部局長	無	無	無	和暦	殿	拝啓・敬具	5
53	2014	国立	部局長	無	略	有	和暦	殿		7
54	2014	私立	組織長	無	有	無	和暦	様		8
55	2014	私立	部局長	無	無	無	和暦	無	拝啓・敬具	8
56	2014	国立	部局長	無	無	無	和暦	殿		9
57	2014	国立	部局長	無	無	無	和暦	殿	拝啓・敬具	6

番号	年度	校種	差出人	文書 番号	公印	様 式	日付	宛名	文頭・文末	行数
58	2014	私立	なし	無	無	無	和暦	各位	拝啓・敬具	12
59	2014	私立	部局長	無	有	無	和暦	殿	拝啓・敬具	8
60	2014	国立	部局長	有	有	無	和暦	殿	拝啓・敬具	8
61	2015	私立	組織長	無	有	無	西暦	様	拝啓・敬具・ 以上	7
62	2015	国立	委員会	無	無	無	和暦	各位		4
63*	2015	私立	部局長	無	有	無	和暦	様	拝啓・敬具	6
64	2015	私立	組織長	無	略	無	和暦	様	拝啓・敬具	6
65	2015	国立	部局長	無	無	無	和暦	様	拝啓・敬具	6
66	2015	私立	組織長	有	有	無	和暦	様	拝啓・敬具	5
67	2016	私立	部局長	無	略	無	和暦	殿	拝啓・敬具	6
68	2016	私立	部局長	無	割印	無	西暦	各位	拝啓・敬具	5
69	2016	私立	部局長	無	無	無	和暦	様	拝啓・敬具	8
70	2016	私立	部局長	無	割印	無	西暦	様	拝啓・敬具	5
71	2017	私立	組織長	無	有	無	和暦	様	拝啓・敬具	4
72	2018	公立	部局長	無	有	無	和暦	様		5
73	2018	私立	部局長	有	無	無	和暦	様	拝啓・敬具	6
74	2018	国立	委員会	無	無	無	和暦	様	拝啓・敬具	6
75	2019	私立	部局長	無	有	無	西暦	殿	拝啓・敬具	7
76	2019	私立	組織長	有	有	無	和暦	様	拝啓・敬具	8
77	2019	国立	教員	無	無	無	西暦	無		5
78	2019	私立	部局長	無	有	無	西暦・和暦	各位	拝啓・敬具	10
79	2019	私立	組織長	有	有	無	西暦	殿	拝啓・敬具	6
80	2019	私立	組織長	無	有	無	和暦	様	拝啓・敬具	6
81	2019	私立	組織長	有	有	無	和暦	殿	拝啓・敬具	9
82	2019	公立	部局長	無	無	無	和暦	様		7
83	2019	国立	部局長	無	略	無	和暦	殿		6
84	2019	私立	部局長	無	無	無	西暦	様	謹啓・敬具	6
85	2019	私立	組織長	無	有	無	和暦	様	拝啓・敬具	4
86	2019	私立	事務	無	無	無	西暦	様	謹啓・謹白	4
87	2019	私立	副組織 長	無	略	無	西暦	様	拝啓・敬具	6
88	2020	私立	組織長	有	有	無	西暦	様	敬具	6
89	2020	国立	部局長	無	略	無	和暦	殿	拝啓・敬具	5
90	2020	私立	無	無	無	有	和暦・西暦	様	拝啓・敬具	8
91	2020	私立	部局長	無	無	無	西暦	様	拝啓・敬具	7
92	2020	私立	事務	無	有	無	無	様		8
93	2020	私立	組織長	無	無	無	西暦	様		9
94	2020	国立	部局長	無	略	無	和暦	様	拝啓・敬具	6
95	2020	私立	教員	無	無	無	無	無	拝啓・敬具	10

番号	年度	校種	差出人	文書 番号	公印	様 式	日付	宛名	文頭・文末	行数
96	2020	私立	組織長	無	有	無	西暦	様	拝啓・敬具	7
97	2020	私立	組織長	無	有	無	和暦	様	拝啓・敬具	6
98	2020	国立	組織長	無	略	無	和暦	殿	拝啓・敬具	8
99	2020	国立	組織長	無	無	無	和暦	殿	拝啓・敬具	6
100	2020	公立	組織長	有	無	無	西暦	様		4
101	2020	国立	部局長	無	無	無	和暦	様	拝啓・敬具	10
102	2020	私立	事務	無	無	無	和暦	様		3
103	2020	私立	組織長	有	有	無	西暦	様	敬具	5
104	2020	国立	部局長	無	無	無	和暦	様	拝啓・敬具	10
105	2020	公立	部局長	有	割印	有	和暦・西暦	様		5
106	2020	国立	部局長	無	無	無	和暦	様	拝啓・敬具	8
107	2020	私立	部局長	無	無	無	和暦	様	拝啓・敬具	7

## 附録 2・「お祈り」文書における結びの挨拶一覧

1. —
2. —
3. 末筆ながら、貴殿の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。
4. 末筆ではありますが、藤原様のより一層のご活躍をお祈りいたします。
5. —
6. —
7. 末筆ながら、貴殿の今後のご健勝をお祈り申し上げます。
8. —
9. 今後のご活躍を、心よりお祈り申し上げます。
10. 末筆ながら、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。
11. 貴殿の今後のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。
12. 末筆ながら高等研究所にご応募頂きましたことを深謝しますとともに、今後一層のご活躍をお祈り申し上げます。
13. このたびのご応募の労に対し厚くお礼申し上げますとともに、貴殿のますますのご活躍とご健勝をお祈りいたします。
14. せっかく御応募いただきましたのに、申し訳ないことですが、御容赦のほどをお願い申し上げます。
15. 末筆ながら、貴殿の今後のご活躍を心からお祈り申し上げます。
16. 末筆ながら、貴殿の益々の御健勝を祈念いたします。
17. —
18. 末筆ながら、貴殿の今後のご健闘をお祈り申し上げます。
19. —
20. 末筆ながら貴殿の今後の益々のご健勝をお祈り申し上げます。
21. 今後の益々のご活躍を心からお祈り申し上げます。
22. 今後のご研鑽とご多幸をお祈り申し上げます。
23. 末筆ながら、貴殿のますますのご活躍をお祈り申し上げます。
24. —
25. まずは、書面にてご通知申し上げます。
26. 末筆ながら、今後の貴殿のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

27. 貴方様のますますのご発展をお祈り申し上げます。
28. 末筆ながら、貴殿の今後のご活躍精励をお祈り申し上げます。
29. 今後ともあなた様の益々のご活躍をお祈りさせていただきます。
30. 末筆ではありますが、貴殿のより一層のご活躍をお祈りいたします。
31. —
32. —
33. 今後ますますのご健勝を祈念申し上げます。
34. 末筆ではありますが、貴殿の今後のご活躍を心より祈念しております。
35. —
36. 末筆ながら、ますますのご活躍をお祈り申し上げ、略儀ではございますが、書中をもちましてご通知申し上げます。
37. —
38. 末筆ながら、今後一層のご活躍をお祈り申し上げます。
39. 今後のご活躍をお祈り申し上げます。
40. 末筆ながら、貴殿のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。
41. 最後となりましたが、貴方様のご健康とご発展をお祈り申し上げます。
42. —
43. 末筆ながら、貴殿の今後のご活躍を心からお祈り申し上げます。
44. 今後ますますのご健勝・ご活躍を心よりお祈り申し上げます。
45. 末筆ではございますが、今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。
46. 末筆ながら、貴殿の今後のご活躍を心からお祈り申し上げます。
47. 末筆ながら、今後の貴方様のご活躍をお祈り申し上げます。
48. 末筆ながら、貴台の今後ますますのご活躍をお祈りいたします。
49. 先生の今後のご活躍をお祈り申し上げます。
50. 今後のご活躍を心から祈念申し上げます。
51. 末筆になりますが、今後のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。
52. —
53. 末筆ではございますが、貴殿の今後のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。
54. 文末ながら、先生の今後のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。
55. 末筆ながら、今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。
56. —
57. 今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。
58. 末筆ながら、皆様のより一層のご活躍をお祈り申し上げます。
59. 尚、先生の今後のご活躍をお祈り申し上げますとともに、今後とも本学の諸活動についてご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。
60. 貴殿のますますのご活躍とご健勝をお祈りいたします。
61. 末筆ではございますが、貴台の今後ますますのご活躍を祈念いたしております。
62. 末筆ではございますが、貴殿のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。
63. 末筆ながら、今後の藤原敬介様のご活躍をお祈り申し上げます。
64. 末筆ではありますが、藤原様のより一層のご活躍をお祈りいたします。
65. 略儀ながら書中にてご連絡申し上げます。
66. まずは失礼ながら書中を持ってご通知いたします。
67. 貴殿の今後益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。
68. 今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお祈り申し上げます。
69. 末筆ながら、貴台の益々のご活躍、ご健勝を祈念いたしております。

70. 今後ともますますのご精励とご活躍を心からお祈り申し上げます。
71. 今後益々のご活躍を祈念いたしております。
72. —
73. 今後のご健勝ご活躍をお祈り申し上げます。
74. 藤原様の、より一層の御活躍をお祈り申し上げます。
75. ご応募頂きましたことに心から感謝申し上げ、審査の結果をご報告させていただきます。
76. 今後ますますのご活躍を心より祈念いたしております。
77. 末筆ではございますが、今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。
78. 今後ともご高配賜りますようお願い申し上げます。
79. —
80. 末筆ではございますが、今後より一層のご活躍とご健勝をお祈りいたします。
81. ご高配賜りましたことに深く感謝申し上げますとともに、先生のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げます。
82. 末筆ではありますが、ますますのご健勝とご活躍をお祈りいたします。
83. ここに、ご応募いただきましたことに感謝いたしますとともに、今後のご活躍を心からお祈り申し上げます。
84. 末筆ながら、益々のご活躍をお祈りいたします。
85. 今後益々のご活躍を祈念いたしております。
86. ご応募くださいましたことに感謝いたしますとともに、今後のご活躍をお祈り申し上げます。
87. 今回、ご応募いただきましたことを感謝するとともに、藤原様のより一層のご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げます。
88. 末筆ではございますが、貴殿のご活躍とご健勝をお祈り申しあげます。
89. —
90. 末筆ではございますが、今後のご健勝をお祈り申し上げます。
91. 末筆ではございますが、ご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。
92. 多数の大学の中から本学にご応募いただいたことに感謝するとともに、益々のご活躍をお祈り申し上げます。
93. これに懲りず又の機会にご応募くださいます事をお願いいたしまして今回の結果報告とさせていただきます。
94. 末筆になりましたが、貴殿のますますのご活躍をお祈りいたします。
95. 末筆ながら、先生の今後のより一層のご活躍をお祈り申し上げます。
96. 末筆ではございますが、今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。
97. 末筆ではございますが、今後より一層のご活躍とご健勝をお祈りいたします。
98. 末筆ではございますが、貴殿の今後のご活躍をお祈り申し上げます。
99. 貴方の今後の益々のご活躍を祈念しております。
100. 今後の益々の御活躍と御健勝をお祈りいたします。
101. 末筆になりますが、藤原様の今後益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。
102. —
103. 末筆ではございますが、貴殿のご活躍とご健勝をお祈り申しあげます。
104. 末筆ながら、今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。
105. ご希望に沿えず申し訳ありませんが、今後とも〇〇大学へのご理解とご支援の程、よろしく願いいたします。
106. 貴殿の今後のご活躍をお祈り申し上げます。
107. 今後のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

附録 3・「お祈り」文書の文面例

簡素な例 1 (8 番)

〇〇大学の採用人事に御応募いただきましたが、残念ながら貴意に添いかねる結果となりましたので、悪しからず御了承願います。

簡素な例 2 (6 番)

この度は、本研究科助教の教員公募に応募いただきありがとうございました。  
選考の結果、残念ながら貴意に添えませんでしたことをお知らせします。  
つきましては、お送りいただきました履歴書、研究業績一覧、論文及び著書等をお返しいたします。

簡素な例 3 (42 番)

このたびは、本学教員へのご応募をいただき、ありがとうございました。第一次選考（書類審査）の結果、残念ながら不採用とさせていただくこととなりましたので、あしからずご了解の程お願い申し上げます。

簡素な例 4 (102 番)

この度は、本学教員に応募いただきましてありがとうございました。  
令和〇年度教員採用書類選考の結果、今回は遺憾ながら貴意に添い難い結果となりましたので、悪しからずご了承願います。

通常の例 1 (23 番)

拝啓、時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。  
さて、このほど本学大学院特定教員に応募いただきまして、厚く御礼申し上げます。  
研究領域や研究課題等を踏まえて選考委員会で慎重に審議・選考に努めましたが、今回は残念ながら貴意に添いがたく、ここに謹んでご通知いたします。  
末筆ながら、貴殿のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

敬 具

通常の例 2 (105 番)

この度は、標記募集にご応募いただきありがとうございました。  
ご提出いただきました応募書類を審査した結果、誠に残念ですが、あなたは〇〇大学教員公募において二次審査（面接）の対象とはなりませんでした。

ご希望に沿えず申し訳ありませんが、今後とも〇〇大学へのご理解とご支援の程、よろしく願いいたします。

**丁寧な例 1 (35 番)**

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度は、本学の教員採用にご応募いただき誠に有難うございました。

優れた研究結果等をお寄せいただきましたが、当該学科において担当予定の科目への適合性等につきまして慎重審議の結果、この度は残念ながら貴殿の採用には到りませんでした。取り急ぎご報告いたします。

結果のご報告が遅くなりましたことを深くお詫び申し上げます。

尚、ご応募の際にお送りいただきました業績書類のうち「著書」についてのみ、別便にてご返送いたしますので、悪しからずご了承ください。

敬具

**丁寧な例 2 (69 番)**

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より本学の教育・研究活動にご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたびは本学の教員募集にご応募くださり誠に有難うございました。多数の方からご関心を寄せていただき心より感謝いたしております。

厳正なる選考の結果、誠に残念ではございますが、今回は貴台のご希望に沿うことができませんでした。悪しからずご了解願います。ご提出書類につきましては、将来のご縁に備えてお預かりさせていただきたく存じます。

末筆ながら、貴台の益々のご活躍、ご健勝を祈念いたしております。

**丁寧な例 3 (76 番)**

年の瀬も押し詰まってまいりました。先生にはお忙しくお過ごしのことと存じます。

さて、先般は、本学にご応募いただき誠にありがとうございました。残念な結果になってしまいましたが、先生の今後のご活躍を心よりお祈りしております。

ご応募の際にお預かりしております書類・資料等は返却しないことになっておりますが、先生のご著書につきましては、返送させていただきます。その貴重なご労作を、先生の今後に生かしていただければ、と存じます。

来る年が先生にとりまして良き年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

丁寧な例 4 (93 番)

教員公募の結果報告とお詫び

此度は学校法人〇〇大学の教員採用にご応募いただき、ありがとうございます。おかげさまで、〇〇名の先生方にご応募いただきました。ありがとうございます。

応募していただきました先生方は皆素晴らしく甲乙つけがたかったです。しかし欠員は一名ですので私をはじめ本学の教員審査委員も苦慮しました。そして何回かの話し合いの末一名の教員を決めました。

先生に置かれましては大変申し訳ないのですが、不採用の決定がなされましたのでここに応募の御礼と不採用のお知らせをさせていただきます。これに懲りず又の機会にご応募くださいます事をお願いいたしまして今回の結果報告とさせていただきます。

〇〇大学学長・教授 (〇博・〇大)

〇〇 〇〇

丁寧な例 5 (104 番)

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたびは、〇〇大学キャリアセンター教員公募にご応募いただき、誠にありがとうございました。

ご提出いただきました応募書類の内容に基づき、キャリアセンター内の選考により、(1)業績、(2)募集分野と職務内容の整合性、(3)今後の就職支援に対する抱負に主眼を置いて、慎重に審議いたしました。その結果、恐れ入りますが、今回はご意向に沿えないとの結論に至りました。

本公募に関心をお寄せいただき、せっかくご応募をいただきながらこのような結果となり、誠に申し訳なく存じますが、この度の結果をご容赦ください。

末筆ながら、今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

敬具

参考文献

飯間浩明. 2014. 『辞書には載らなかった不採用語辞典』PHP 研究所.

池田弥三郎. 1976. 『暮らしの中の日本語』毎日新聞社.

石渡嶺司. 2013. 「就活 温故知新 (第4回) 就活開始時期論争はいつまでも」『HRmics』16: 49-53.

植木岳雪. 2018. 「研究者の不採用通知における「お祈り」通知と「ますます」通知」『千葉科学大学紀要』11: 75-82.

大岡信. 1993. 「いま日本語について考えるべきこと」新潮編集部 [編] 『最新日本語読本』新



潮文庫、9-23.

- 菊地康人. 1997. 『敬語』 講談社学術文庫.
- 菊地康人. 2010. 『敬語再入門』 講談社学術文庫.
- 櫻田大造. 2011. 『大学教員 採用・人事のカラクリ』 中公新書ラクレ.
- 椎名美智. 2021. 『「させていただく」の語用論—人はなぜ使いたくなるのか』 ひつじ書房.
- 杉元伶一. 1990. 『就職戦線異状なし』 講談社.
- 時枝誠記. 1941. 『國語學原論—言語過程説の成立とその展開』 岩波書店.
- 西村茂樹・西村久仁子 (編). 2019. 『西村玲遺稿拾遺—一九七二～二〇一六』 私家版.
- 文化審議会答申. 2007. 『敬語の指針』 文化庁.
- 三上章. 1955. 『現代語法新説』 刀江書院.
- 水月昭道. 2020. 『「高学歴ワーキングプア」からの脱出』 光文社新書.
- 三輪正. 2000. 『人称詞と敬語—言語倫理的考察』 人文書院.
- 矢吹樹. 2011. 『大学動物園』 文芸社.
- 鷺田小彌太. 1989. 「教養部八七年度教員一般公開募集のまとめの一側面」 『リベラル・アーツ』  
1: 44-53.
- 鷺田小彌太. 1991. 『大学教授になる方法』 青弓社.

受理日 2022 年 4 月 12 日